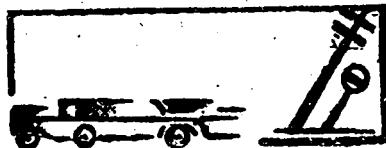


雜 錄



國防幹線道路起工さる

正会員瀬戸正章*

滿洲國に於て懸案であつた自動車専用國道建設計畫は、既に決定を見た第二次產業開發計畫に於て五ヶ年間の事業計畫を取扱つたが、國防幹線道路なる名稱の下に本年度より着工されるに到り世紀の大事業は歓々建國十周年の意義ある年に發足した。

本計畫は滿洲國交通の大動脈、哈爾濱一大連間を中心、南滿重工業流域を連絡するもの、哈爾濱より北滿の権要據點に到るもの、或は鮮滿支を連絡するもの其他を含み強調なる交通體制の確立を目途としてゐるが、初年度たる本年度は財政、物動、労務、技術上の難點から諸般の基礎準備を要する爲め、先づ初年度 200 萬圓を以つて工事に着手したが、續後各地に於て全面的に着手される豫定である。

政府に於ては之が建設に當たらしむる爲め交通部國防道路建設處を設置し去る 8 月 1 日開廳を見たのであるが、之の建設の亘歩は遼陽—鞍山間に印されるに到つたのである。

從來奉天に置いて在つた交通部哈大道路調査事務所を遼陽市に移し國防道路建設處遼陽建設事務所として 4 月 1 日より事務を開始し、現地の具體的準備に當らもむる一方、4 月中旬に設計を了へ、物資器材の入手困難なる時代なるに係らず各方面の絶大なる支援の下に着工の準備を了へた。

4 月早々交通部主腦部及關係責任者は奉天鞍山に於て満鐵、奉天省、及省下機關、昭和製鋼所の主腦者に之が建設計畫の概要を説明すると共に歓々懇談をなし協力を求めたが、各機關は極めて積極的な支援を約し大いに其の施行に對し鞭撻激励する所があつた。

次いで 5 月 11 日奉天市に於て交通部關係者と省主腦部

との會合に於て即日、奉天省國防道路建設奉公隊の結成が決定し直ちに要綱を作成した。當日奉天省管下連京線沿線の各市縣より建設奉公隊を結成參加せしむる他、鞍山遼陽市内中等學校(男子)より學生奉公隊を組織參加する事が決定し、更に課本部に次の役員を置く事に一決した。

奉公隊本部長	皆川省次長
同 副本部長	申民政廳長
同 同	山口協和會省副本部長
奉公隊總隊長	溝江省建設廳長
奉公隊本部役員	瀬戸國防道路建設處企劃科長
同	瀬川省勞務科長
同	大島協和義勇奉公隊監督部主事
同	吉野省青少年團監督部主事
同	堀田省文教科長
同	平野省商工科長
同	汪遼陽縣長
同	河田國防道路遼陽事務所長
同	松下省技正

尙各市縣奉公隊員は明年度より施行るべき勤務奉公制に對し 21 才より 23 才に至る壯丁並に協和義勇奉公隊、協和青少年團等の内より優秀なるものを選び、各市縣及學生別に隊を編成したが、隊は大隊、中隊、小隊及分隊に組織編成され其の參加員數を次の如く決めた。

復 縣	1 中隊	180 名	蓋平縣	1 中隊	180 名
海城縣	1 中隊	180 名	營口市	1 中隊	180 名
鞍山市	1 中隊	180 名	遼陽市	1 中隊	180 名
遼陽縣	300~2000 名	(適宜中隊及大隊編成)			
瀋陽縣	1 中隊	180 名	奉天市	2 大隊(大隊) 360 名	

國防幹線道路起工さる

鐵嶺縣 1中隊 180名 學生隊 1中隊 180名

計 參加員數 2280名～3980名

以上各隊の内遼陽縣は6月上旬より7月15日迄を300名とし7月15日より9月15日迄を2000名參加せしめ、其後10月末日迄を再び300名に減じ、農閑期に參加人員を増加することになった。

尙此の計畫員數は其後若干の移動を見、瀋陽縣は350名を出動して奉仕期間を半減することになり、又學生隊を約400名參加せしめ奉仕作業を短期に終了する事にした。

尙隊の本部には指導班、福祉班、會計班、配給班、施療班を置き各々所定の事を遂行する他、實踐的活動をなさしむる爲め、遼陽國防道路建設事務所内に建設奉公隊實踐本部を置き、各大隊中隊本部との聯絡を緊密にすることとなつた。

更に奉公隊運営要綱を作成し隊の組織編成、經費其他に関する協定をなし作業に從事する事とし、町田國防道路建設處長と皆川省次長(國防道路建設奉公隊本部長)との間に「國防道路建設に関する協定書」を作成調印を了へた。

5月16日遼陽縣公署禮堂に於て具體的事項の第一回打合會を開催、交通部よりは、瀬戸企畫科長他係官、市縣側よりは高松遼陽縣副縣長外各縣副縣長、市主腦者、市縣協和會事務長其仙奉公隊幹部參集交通部より建設計畫に關する説明をなし作業區間の割當、食料及燃料の配給等につき具體的な協議を遂げた。

其後同月24日第二回打合會を遼陽國防道路建設事務所にて開催奉公隊(市縣學生隊)幹部を招集、宿營、食糧、燃料の細部的打合せ、作業實施要領の説明をなし、奉公隊結成並作業開始式の前日6月7日まで所定員數の全部を現地に集結せしめ得る様6月4日までに各隊別に先遣隊を入れることにし、實行的協議を了へた。

6月4日、先遣隊が宿營個所に入る一方、遼陽市禮堂に、奉公隊幹部及中隊長を招集し、日滿兩語で、國防道

路計畫の意義、勤労奉公制度運用の意義、及勞務問題等につき、主に滿系隊幹部に瀬戸、大島、瀧川各本部員より詳細説明し、此の要旨を印刷し隊員に配布することとしたが、6月7日全隊員の現地集結を見たのである。

6月8日遼陽市郊外に於て、關東軍參謀長(代理)總務長官(代理)民政部大臣、交通部大臣、他來賓者、奉公隊本部役員及幹部、交通部現地職員、奉公隊員代表等2000名、參列の下に、奉天省國防道路建設奉公隊結成式並に作業開始式を舉行した。

當日の情況はニュース映畫で御承知の通りであるが、翌6月9日から全隊員の一齊作業が開始された次第である。

作業に從事せる3000名の隊員は國防道路建設奉公隊々旗の下に炎天焼く如き遼陽原頭で汗の奉仕に滿洲國青年の意氣を見せてゐるが、2ヶ月間の農閑期には4800名に増加される。尙又9月から國軍工兵隊の參加が略々決定して其の擔當區間が決められてゐる。

之等市縣學生其他の奉仕隊は土工作業を行ふのだが、10月末までに約900,000立方メートルの土量が動かされ、地平線まで延々と續く堂々たる路盤の築造を了へる事になる。

特に附記したいのは奉公隊と雖も決して經費は無いのでなく、請負工事程度の費用を交通部が負擔してゐる事、食糧、燃料其他の配給(經費は交通部負擔)に省當局が極めて懸命な努力をしてゐるのであるが、新しき勞務體制への転として、奉公隊制度確立の前提として、吾人は滿系青少年層の團體的訓練と國防意識の高揚に最も重大なる意義を感じ之が育成發達を希望してゐるものである。

十月初旬、現地に於て盛大なる國防幹線道路起工祝賀式を舉行し、東亞に於ける世紀的事業の發足を祝することになつてゐるが、會員諸氏の多數參列を期待してゐる。

工事の技術的報告は他日の機會に譲り簡単に以上の報告に止めた次第である。

終り